



自然、文化、産業が響き合う
安曇野共生プロジェクト

長野県 安曇野市

2030年のあるべき姿
&
第2次安曇野市総合計画 将来ビジョン

自然、文化、産業が織りなす 共生の街 安曇野

- 自治体SDGsに資する取組
- 自治体SDGsモデル事業 「自然、文化、産業が響き合う 安曇野共生プロジェクト」
- 統合的取組 「里山からつながる 安曇野共生プロジェクト」

経済・社会・環境の好循環
誰一人取り残さない

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

安曇野の強み、資源



自治体SDGsモデル事業の概要 3側面の取組

自然、文化、産業が響き合う 安曇野共生プロジェクト

経済（産業）



社会（文化）



環境（自然）



1. メタバースを活用した 安曇野体験と交流促進

- ⇒ 2024年からメタバースの運用を開始
- ⇒ メタバース内で安曇野を仮想体験してもらい、リアルな誘客意欲の喚起につなげる
- ⇒ 多様な主体とコラボしたイベントの開催

2. アドベンチャートラベルの推進

- ⇒ 世界的に観光ニーズが「体験型」へシフト
- ⇒ 地域通訳案内士を30名養成
- ⇒ アクティビティガイドを育成、インバウンド誘致

3. 東部アウトドア拠点の構築

- ⇒ 2024年にアウトドア拠点の基本構想を策定
- ⇒ アウトドアに加え、交流やスポーツ人材の育成、歴史文化の情報発信拠点等の機能も付与

4. 「安曇野わさび産地強化プロジェクトチーム」によるわさびの生産振興

- ⇒ 安曇野市はわさび生産量が全国1位、2023年には「安曇野わさび」のGI取得申請
- ⇒ 2024年に「安曇野わさび産地強化プロジェクトチーム」を設立、生産者の悩みや専門知識を共有し合える情報共有やブランド展開の場を創出

1. あづみの自然保育を通じた こども園体験入園

- ⇒ 「園庭ミニ田んぼ」等による自然保育を推進
- ⇒ こども園体験入園事業の展開により、子育て世帯の移住促進や保育士等の確保につなげる
- ⇒ 市内NPOや旅行者と連携した取組を展開

2. ユニバーサルデザインの まちづくり

- ⇒ ユニバーサルデザインガイドブックの発行等による市民や事業者等の理解促進
- ⇒ 多言語に対応した映像通訳サービス「みえる通訳」の導入や手話通訳アプリを公共施設に配備し、市役所をユニバーサルデザイン化
- ⇒ 信州大学や小中学校と連携した調査を実施し、施策展開や整備につなげる

3. アーティスト・イン・レジデンスを 通じた交流促進と市内活性化

- ⇒ アーティストが安曇野で学び育つ滞在制作拠点やアーティストと市民の交流拠点として整備
 - ⇒ 学校の空き教室を活用した「アーティスト・イン・スクール」により、児童生徒が文化・芸術に親しむ場を共創
- ※アーティスト・イン・レジデンス: 芸術家などが一定期間滞在し、作品制作やリサーチなどを行う機会を提供する事業

1. 「ニホンザル追い払い隊」による 野生鳥獣との共存

- ⇒ 2023年に「ニホンザル追い払い隊」を設立、91名の会員が農業被害防止や安全確保に貢献
- ⇒ 市内外の住民を非常勤公務員として登用
- ⇒ 人間と野生動物との適切な距離を保つことで、人と自然が共存する持続可能なまちを形成

2. きのご廃培地を活用したバイオマス発 電等の推進による地域脱炭素化

- ⇒ きのごを採取した後に残る廃培地の処理が課題
- ⇒ 市内事業者と連携し、きのご廃培地をバイオマスボイラー用の固形燃料として生成、木質チップの乾燥も併せて行う
- ⇒ 温浴施設等へのバイオマスボイラーの設置や公共施設への屋根置き太陽光発電設備の設置、住宅への薪ストーブの導入等を推進

3. 里山再生活動「さとぷろ。」の推進

- ⇒ 市民や事業者が行政が連携し、里山再生活動「さとぷろ。」を展開
- ※統合的取組に続く

里山再生活動「さとぷろ。」について



「さとやま」「ふるさと」などの「さと」
「プロジェクト」、「プログラム」などの「ぷろ」
※ 「かわいらしく」するために「。」をつけています。

Q. 「さとぷろ。」とは

A. **安曇野市里山再生計画に関する取組の愛称**です。

「さとぷろ。」は「安曇野市里山再生計画」に基づいた取組です。安曇野市では、市民や事業者が主体となり、行政と連携して里山再生に向けた取組を2015年から行っています。
2023年には、「さとぷろ。」を総合的に推進する任意団体**「さとぷろ.機構」**が誕生しました。

Q. 「さとぷろ。」の具体的な活動は

A. **4つのプロジェクト**を実施し、里山再生に向けた取組を進めています。



薪づくり講習会

まきの環プロジェクト
(木質バイオマス活用)



積み木キャラバン(松枯材活用)

木材活用プロジェクト
(市産材利用促進)



さとぷろ.学校(里山学習)

学びの環プロジェクト
(里山学校)



里山の植生調査

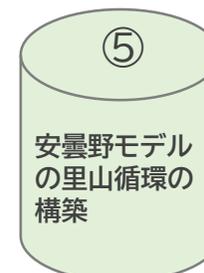
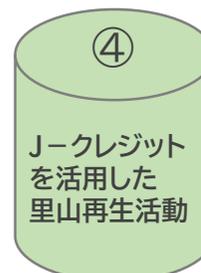
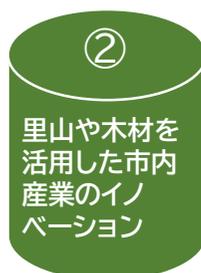
魅力発見プロジェクト
(里山保全・体験学習)

三側面をつなぐ統合的取組 概要

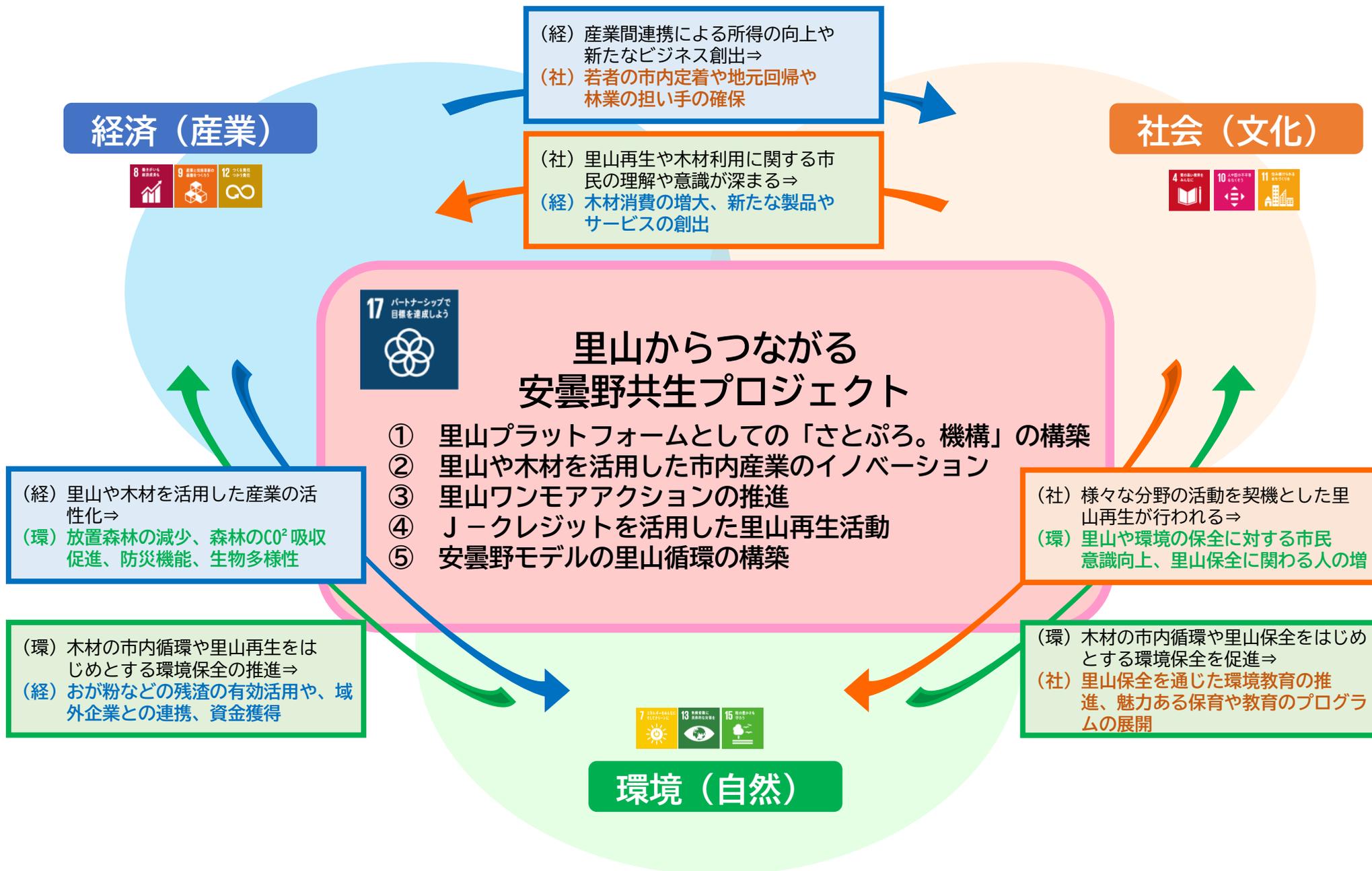
統合的取組：里山からつながる安曇野共生プロジェクト

経緯	2015年から里山再生活動「さとぷろ。」がスタート。市民や事業者が主体となり、行政と連携することで、里山再生に向けて様々な活動を展開している。
現状と課題	「さとぷろ。」は、社会面や環境面での大きな成果を挙げているが、地域経済の活性化といった 経済面での寄与は弱い 。また、より一層活動を深めていくためにも、 他の分野や主体との連携 が重要になる。
提案内容	「さとぷろ。機構」 の活動を軸に、里山をキーワードに 分野の枠を超えた連携 や 関係人口の創出 を図る。 そして、 里山で稼ぐ、里山に学ぶ、里山を守る といった活動、体験を通じて、あらゆる人が安曇野の里山に携わるきっかけづくりと体制整備を進める。

統合的取組で提案する5つの取組



統合的取組によって生じる3側面への相乗効果



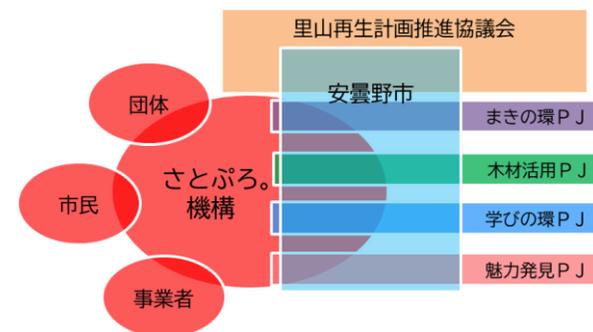
統合的取組 内容

- ① 里山プラットフォームとしての「さとぷろ。機構」の構築
- ② 里山や木材を活用した市内産業のイノベーション

① 里山プラットフォームとしての「さとぷろ。機構」の構築

概要	<p>里山再生活動「さとぷろ。」を組織的に推進し、統合的取組を推進する土台となるプラットフォームを構築する。</p> <p>「里山」をキーワードに、多様な分野から市民、事業者、金融機関、教育機関、地域団体など様々な主体が「さとぷろ。機構」に集い、情報を共有し、連携を生む場を創出する。</p>
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「さとぷろ。」で実施している各活動の調整やステークホルダーとの連携創出 ・ 「さとぷろ。機構」の活動拠点「さとぷろ。ベース」による効果的な活動展開 ・ 「さとぷろ。」の活動の周知・広報

「さとぷろ。機構」と他団体の関係性



② 里山や木材を活用した市内産業のイノベーション

概要	<p>安曇野市における業種や分野をまたがる連携を通じて里山や木材を活用し、里山で稼げる環境を生み、林業の担い手の確保や関係人口の創出、里山整備等につなげていく。</p>
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 里山でのツアーやアウトドア体験、学習、製材体験などを通じた新たな価値を付加した観光モデルを展開 ・ 里山資源の一層の活用を目指し、製品の一部や容器など、木材の特性を活かした製品開発やジビエの製品化を展開 ・ 学習机の天板作成ワークショップやこども園の遊具作成などを通じて、こどもが市産木材にふれる機会を創出するとともに、木材活用の新たなルートを構築



③ 里山ワンモアアクションの推進

<p>概要</p>	<p>里山再生の課題に「里山再生に関心はあるが、参加するきっかけを持たない市民」をいかに巻き込んでいくかが挙げられる。市内イベントや交流活動等の中で、「里山資源の活用」、「木材のアップサイクル」、「植樹」などを推進することで、あらゆる活動から里山の活用や保全に関わるきっかけを創出していく。</p>
<p>具体的内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> 安曇野市が構築するSDGs 宣言制度と連動した実施とし、実績等を公表 市内で行われるイベントや交流活動等を行う中で、「里山資源の活用」、「木材のアップサイクル」、「植樹」などを推進 「さとぷろ。機構」が現地で知識・技術面等のサポートを行い、各団体との連携を生む

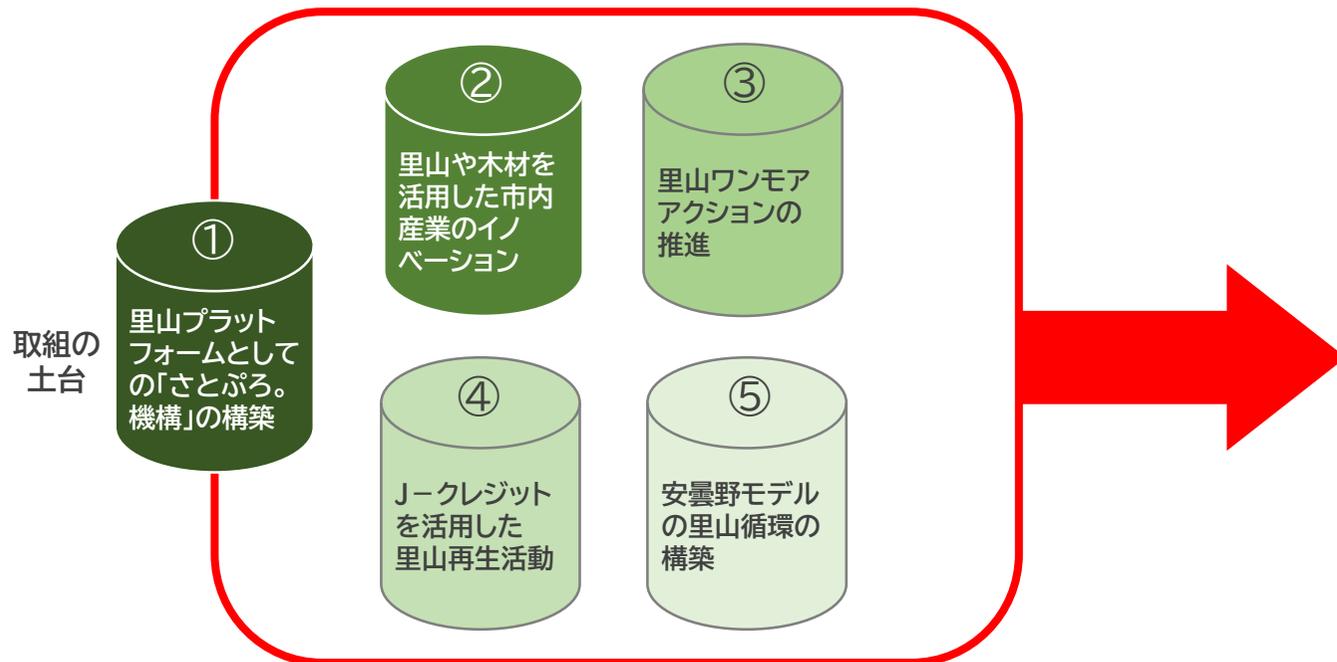
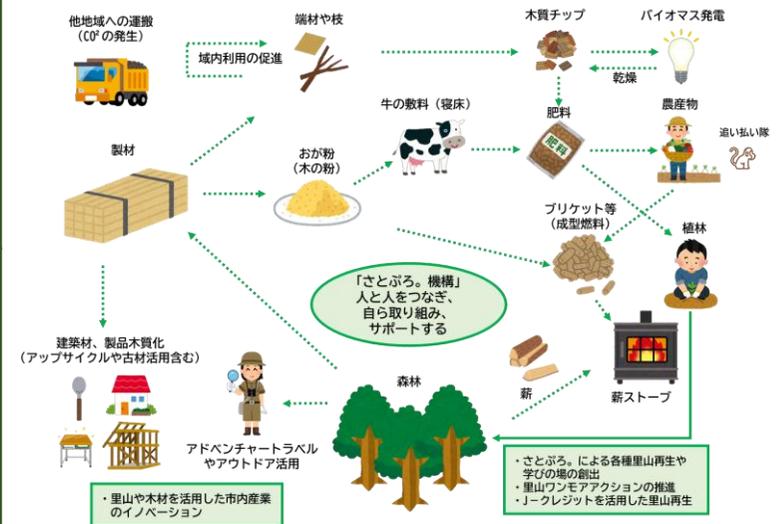


④ Jークレジットを活用した里山再生活動

<p>概要</p>	<p>「さとぷろ。機構」が、森林所有者や行政と連携し、これら個々の団体が行う森林整備活動を「さとぷろ。機構」が集約する。そして、Jクレジットの創出を図ることで温室効果ガスの削減を促進し、「安曇野ゼロカーボンシティ宣言」で掲げた2050年カーボンニュートラルの実現につなげていく。</p>
<p>具体的内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市が実施する森林管理経営制度との連携を図り、「さとぷろ。機構」や森林所有者、林業経営体そして安曇野市が一体となって森林整備やJクレジットを創出 地域コミュニティや地域企業、信州大学との連携を図り、最新の林業技術や機材利用などによる効率的整備 八十二銀行との連携によるクレジット販売の実施

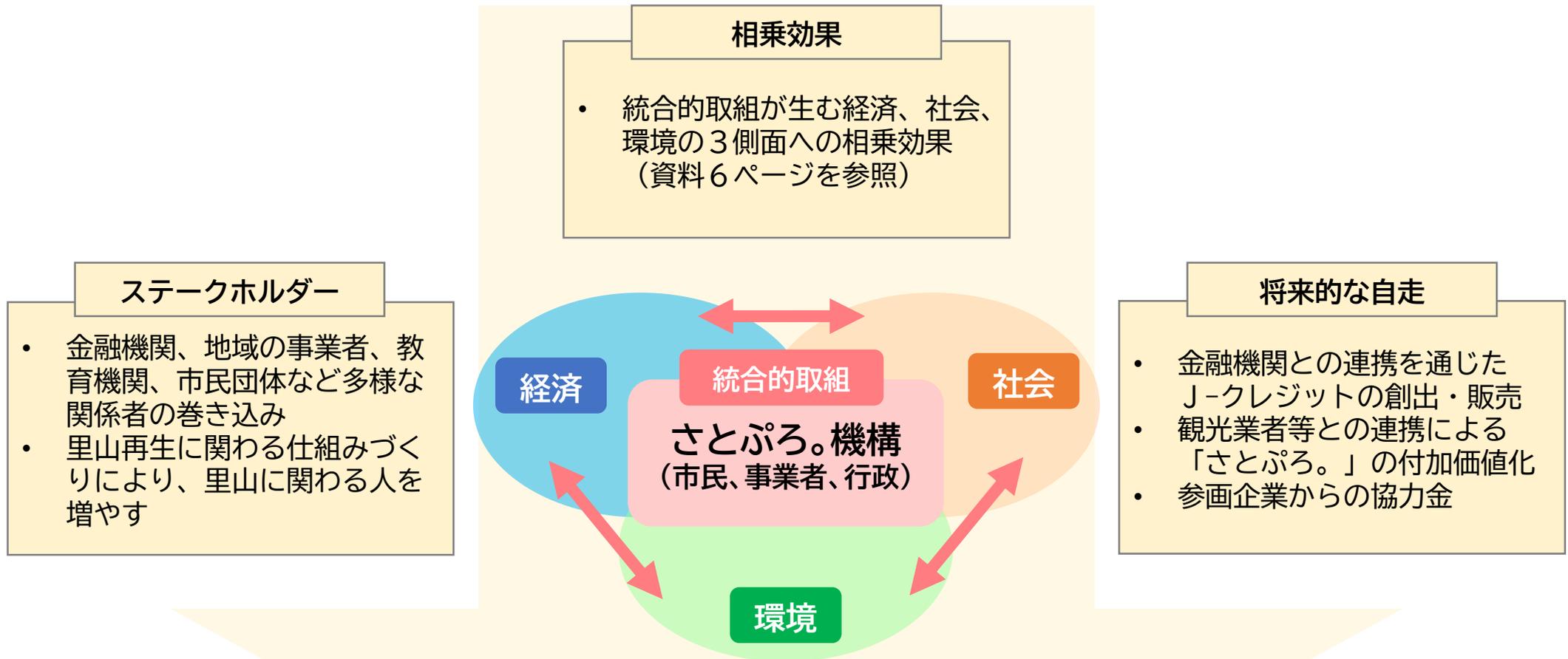


⑤ 安曇野モデルの里山循環の構築	
<p>概要</p>	<p>木材の加工過程で出るおが粉の活用をはじめ、端材の高付加価値化、市内バイオマス発電によるエネルギーの地産地消、里山再生活動「さとぷろ。」での各種取組、先に挙げた統合的取組の推進を図ることで、安曇野モデルの里山循環を構築する。</p>
<p>具体的内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> おが粉の活用(農業や植林の肥料、固形燃料)、端材の燃料用チップ加工等により、森林資源活用を図る 効果として、新たな木材活用ルートへの創出、エネルギーの地産地消によるCO²削減、多様な活動を木材循環に結び付ける等により、安曇野ならではの里山循環を構築



統合的取組により、
経済、社会、環境の3側面への
相乗効果を生む
(KPI、アウトカムの達成)

統合的取組 自律的好循環の具体化に向けた事業の実施



2030年のあるべき姿 (=安曇野市総合計画 将来ビジョン)

「自然、文化、産業が織りなす 共生の街 安曇野」

の実現へ